

授業評価 2015 (前期) T1T: 工学部画像科学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.79(2015-09-11) by Yas

2015 年度前期 工学部画像科学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1T020001	写真創作実習	3 年前期金曜 5 限	(鈴木 建男)	T1T 1
T1T021001	画像科学実験 III	3 年前期水曜 3,4,5 限	高原 茂他	T1T 2
T1T060001	画像物理化学 I	2 年前期金曜 2 限	柴 史之	T1T 3
T1T071001	画像物理化学 II	3 年前期火曜 3 限	大川 祐輔	T1T 4
T1T074001	光反応化学	3 年前期月曜 4 限	高原 茂	T1T 6

授業科目名	: 写真創作実習
担当教員	: 鈴木 建男
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 5 限
授業コード	: T1T020001
授業アンケート	: 回答者数 6 人 / 受講者数 9 人 (回収率 67%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 3 件)

今回の撮影実習の為に「このような表現が可能」という事を授業の中で説明をします。工学部の中では希有な授業でもあり実習を通して自己の表現及び目的を明確にする為に発展的な思考力を養う為に行われる授業である。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 6 件)

授業の中ではコミュニケーションする事の大切さを重用視する為、問題意識を持った学生程、授業評価は良くなります。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていきましたか? (回答 6 件)

3~4 年生対象の授業ですが、最後の授業の時に TA (大学院に入ってから) の募集をします。TA の経験は社会人になってからのリーダー性を養う為の訓練です。その事を学生に伝えて社会に出てからの生き方を学ばせます。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

私の授業は始動から完成を目的とした授業です。始めたものは完成させる方法論を学ばせます。授業最後の自己プレゼンテーションと作品展示は相手に伝える事の大切さを学ばせます。

### 3. その他のコメントや連絡事項

写真創作実習という工学部では希有な授業であります。モノの見方・考え方を数値理論だけではなく自己の表現から他人とのコミュニケーションを大切にする人間形成を基本とする授業です。授業名も写真の定義だけで収まらなくなって来ている昨今、写真創作実習という名前から画像表現実習に変えた方が宜しいかと考えます。

作成 (者): 鈴木建男

授業科目名	: 画像科学実験 III
担当教員	: 高原 茂, 青木 直和
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 3,4,5 限
授業コード	: T1T021001
授業アンケート	: 回答者数 19 人 / 受講者数 45 人 (回収率 42%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 15 件)

この授業は必修の学生実験ですにもかかわらず, この設問に対して比較的回答のばらつきが大きいのは, わかりにくかった実験もあったということのようです。実験例などに内容への導入がしやすい工夫が必要のようです。

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 15 件)

この設問の回答ポイントが低いのは, レポートへのフィードバックをもっとしてほしいということではないかと考えています。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 19 件)

この設問への回答が実験科目でありながら 30 %近くが質問していないと答えたのは残念で, TA や教職員もいるのでどんどん質問しましょう。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

この学生実験ではレポート提出が必須で, かなりのストレスになっていることは教員側に理解していますが, 理工系の学生は避けられないものです。実験前に予習してきて, できるだけ多くの質問を TA や教職員にして, 身をもって実験内容を感じて内容を理解していくことが実験での学び方ではないかと思えます。

### 3. その他のコメントや連絡事項

実験は準備や実際の操作に時間と労力がかかりますが, 理工系ならではのものですので, 味わって実験するぐらいの余裕を持って受講してください。

作成(者): 高原 茂

授業科目名	: 画像物理化学 I
担当教員	: 柴 史之
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 2 限
授業コード	: T1T060001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 61 人 (回収率 52%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 30 件)

特に, 授業の後半になると, 板書の文字が乱れる傾向にあるので, 気をつけたい。また, 書く場所など, 見やすい板書を心がけたい。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 30 件)

今後は, 教科書に掲載されていないことでも, 身近な事柄の実例の紹介を入れることを考えたい。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 30 件)

主に宿題の解答に要した時間が反映されていると思うが, 平均 1 時間前後ということであり, もう少し課題の量を増やしてもよかったかもしれない。今年度は, 授業内容の復習を中心に宿題を課したが, 次年度以降は, 発展的内容に挑戦する問題も, 宿題に課してもよいかもしれない。一方, 2 時間以上という回答もあるが, 宿題に行き詰まっているのであれば, 遠慮なく質問にきてほしい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

反応速度および現象論てきな化学平衡を扱ったが, これらを通して, 化学現象を「数式を用いて記述し, 定量的に理解するということ」の必要性を理解してもらえたでしょうか。化学現象を数式で記述するときの考え方をベースに, 必要に応じて式変形 (複数の関係式の組み合わせ, 対数への変換や, 微分方程式を解くなど) を行うことで, その化学現象のいろいろな側面が見えてきます。その際, グラフで可視化することも重用です。

### 3. その他のコメントや連絡事項

物事を定量的に理解しようとする姿勢や, 複数の異なる視点から事象を理解する姿勢は実社会においてもとても大切です。(もちろん, 物理・化学あるいは工学の世界では必須です。)是非, 身につけて下さい。

作成(者): 柴 史之

授業科目名	: 画像物理化学 II
担当教員	: 大川 祐輔
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1T071001
授業アンケート	: 回答者数 25 人 / 受講者数 53 人 (回収率 47%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 24 件)

教室のサイズの関係もあるのか、よく聞こえないという意見が例年になく多かった。自由記述欄では聞こえないというものが目立つものの、Q3 では半数近くはよく聞こえたとなっている点はややひっかかる。次年度はマイクを使うことを検討する。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは、見やすかったですか? (回答 25 件)

板書量は非常に多いのだが、この点はあまり評判がよくなかった。数式やその導出・変形が多いため、ある程度はやむを得ないものと考えている。数式をきれいにフォーマットしてプロジェクタ投影しても、誘導過程や各項の対応関係はわかりやすくないと考えている。むしろ、出てくる項の対応や意味を、動的に見ていく方がよいと考えて、あえて手書きをしている。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年の自由記述欄には「苦情」に類するものが多かった。苦情を含めて、意見をもらったことにはまず感謝したい。

苦情が多いということは、それだけつらい講義でもあったのであろう。声が聞き取りにくい、板書が見にくい、という意見については、こちらも気をつけているつもりなのだが、できればその時点で声を上げて欲しい。

以下は、否定的なコメントに対する教員側の見解:

「試験が難しい」そもそも教科書、ノートを持ち込み可にした試験で、教科書に書いてあることを写してすむ試験なら、試験の意味はない。また、練習問題レベルよりは一ひねり程度はあるにしても高度な問題を出题しているつもりはない。

「講義中に延々と続けた式の誘導が試験に出ない」これも、持ち込みを認めている試験で、そのような過程を出題できるわけもないだろう。非常に複雑になる場合などは方針のみで具体的な誘導過程なしに結論の式だけ示した場合もあったが、学部3年生でフォローできるような数式は、面倒でも一度はその流れを追うこと自体に意味がある。

「量が多くて理解が追いつかない」講義ではかなり内容を絞っているつもりなのだが、それでもこのような意見があった。実際、試験の結果を見ても消化できていない人が多いのはわかる。それなら、わからなかった時点で質問に来る等の対策が重要なのではないか。また、そもそも聞いただけですぐにわかるような内容を扱っているわけではないので、教科書を読んで再考する、練習問題をやってみる、というような、能動的な学習は必須である。またそれが大学の講義というものではないのか。

### 3. その他のコメントや連絡事項

熱力学、統計力学、量子力学は現在の科学のもっとも根源的な基礎である。これらのつながりを理解するために、関連するいくつかの講義を含めて、ある程度広い理解を身につける必要があり、またそうなってくると、一気に見通しがよくなる面もあるだろうと思っている。

講義を聴く、板書を写す、それだけでわかるような授業は、このような分野では無理である。簡

単な練習課題を何回か出したが、その程度ですむと思うこと自体がずれている。

再履修になってしまった諸君は、じっくりと教科書を読み、実際に手を動かして計算を行い、それらの式の意味をもう一度考え直してみたい (そもそも板書の式の誘導を完全にトレースできるだろうか?)

作成 (者): 大川祐輔

授業科目名	: 光反応化学 (旧名称「光機能材料」)
担当教員	: 高原 茂
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1T074001
授業アンケート	: 回答者数 16 人 / 受講者数 45 人 (回収率 36%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 4 件)

Q3 の回答では教員の声がよく聞こえているようですが、話し声を聞き取りにくいとの回答が 4 人あるということは、滑舌の悪さがまだあるということで改善したいと思います。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは、見やすかったですか? (回答 15 件)

明るいプロジェクターを教室に毎回持って行っている努力が報われているようです。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 15 件)

毎回 4 時間以上かけている学生もいるということで、例年と少し傾向の変化が見られます。勉強するようになってきている兆候があり、この傾向が拡大することを期待します。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

教科書をベースに、化学反応については授業の例題、課題で親しんでいただくようにしていますが、まだ十分でないと感じています。化学反応によりなじむよう Moodle 上での小テストでも関連する問題を増やさなければと感じています。

### 3. その他のコメントや連絡事項

教室を暗くしないでパワーポイントが見られる教室になると教員側も助かります。

作成(者): 高原 茂